

技能評価システム移転促進(SESPP)事業

事業実施報告書【ミャンマー】

- ◆2017 年 10 月 24 日(火)～27 日(金)
- ◆ミャンマー連邦共和国・ヤンゴン市 Skills Training Center(STC)
- ◆旋盤 3 級 技能評価技法研修

平成 29 年 12 月

1. 事業の全体概要

(実施期間) 平成 29 年(2017 年)10 月 24 日(火)～27 日(金)
 (実施場所) ミャンマー Skills Training Center(STC)
 (職 種) 技能評価技法 旋盤 3 級
 (講 師) 稲川 文夫氏(SESPP 事務局)
 (受講者数) 10 名(労働局技能開発課及び訓練施設の指導員等)
 (実施日程)

日時	活動名(指導内容)	
10月24日(火) 8:30～16:30	・開講式 ・全体スケジュール、研修内容の解説(オリエンテーション) ・実技試験問題の解説 ・実技試験問題の実施要領解説 ・旋盤及び操作方法の確認	(開講式挨拶) ・ミャンマー政府関係者 ・実技試験の要領及び問題について集中的に講義
10月25日(水) 8:30～16:30	・実技採点要領解説 ・実技試験問題作成演習 ・作成した実技試験問題のプレゼンテーションと質疑応答 ・作業時間の決め方についての解説	・実技試験の採点要領を講義 ・受講者を3グループに分けて、実技試験問題の作成演習 ・作成後にプレゼンテーションとディスカッション・解説を実施
10月26日(木) 8:30～16:30	・機械加工職種(共通)及び旋盤についての解説 ・3 級学科試験問題の解説 ・2 級実技試験及び学科試験問題の解説	・3級の学科試験問題を講義 ・あわせて2級の試験問題を解説し、3級との違いを説明
10月27日(金) 8:30～15:40	・2 級学科試験問題の解説(続き) ・3 級学科試験問題作成演習(実技・学科) ・作成した問題のプレゼンテーションとディスカッション ・修了式(閉講式)	・3つのグループに分け、3級の学科問題の作成演習 ・作成演習後にプレゼンテーションとディスカッション・解説 ・閉講式のプログラム ①修了証授与 ②講師講評 ③STC挨拶 ④受講者代表挨拶 ⑤記念撮影



2. 講師講評

◆総評

受講者は、機械加工に関する技能検定試験の基準と細目に記述されている項目については、おおむね理解できる能力があったので研修をスムーズに進めることができた。

今回、3 グループで学科試験問題 36 問を作成した。作成された問題の 8 割は妥当な内容であった。その他の問題も若干の解説と指摘を加えることによって、妥当な内容に修正することができた。

彼等の能力を活用すれば技能検定 3 級程度の学科試験問題の準備・作成は十分可能と期待できる。

◆今後の研修について

- ①ミャンマーの訓練校では、ハイスのバイトによる訓練が主流である。超硬バイトに関する知識を持っている者は少なかった。したがって、切削条件や加工方法については、ハイスのバイトを使う場合の内容を中心とした。
- ②今日の加工方法は、超硬チップを使って行うことが中心である。そこで、ミャンマーの職業訓練の将来を見据えた場合、超硬チップの種類、用途及び材料特性については重要な項目なので詳説した。
- ③加工工程図を作って、工程ごとの加工時間を決める方法は、初めての経験とのことで、大変興味を持って聞き、熱心に時間計算を行っていた。そもそも、ミャンマーでは加工工程図を作って訓練生を指導する習慣がないということなので、大変興味を持って聞いてもらうことができた。
- ④ハイスのバイトを使って技能検定旋盤 3 級課題を製作する標準作業書の作り方及び作成した標準作業書による切削条件の確認・検証は、ミャンマーの指導員にとって大きなテーマであるといえる。

3. 受講者へのアンケート結果(受講者10名)

(1)全体の印象について

- | | | |
|-------------------|-----------|------------|
| ①満足度: 大変満足=7 人 | 満足=3 人 | 満足度 100% |
| ②役立ち度: 大変役立つ=9 人 | 役立つ=1 人 | 役立ち度 100% |
| ③継続性: 是非継続すべき=7 人 | 継続すべき=3 人 | 継続希望度 100% |

(2)最も有意義だった内容について(複数回答)

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| ・学科試験問題の作成方法: 6 人 | ・実技試験問題の作成方法: 6 人 |
| ・採点の仕方: 3 人 | ・加工時間の決め方: 3 人 |
| ・いろいろな知識を習得できた: 3 人 | ・加工工程の決め方: 1 人 |
| ・レベルによる問題の難易度の決め方: 1 人 | ・実技試験の作業要素の構成: 1 人 |
| ・大変役立つ旋盤の専門的内容であった: 1 人 | |

(3)次年度に向けて改善すべき内容について

- ・研修期間を長くすべきである(短すぎる): 5 人 ・翻訳に意味不明な部分があった: 2 人

(4)将来は、どんな職種の技法研修を希望するのか(意見・要望)

- ・旋盤 1 級、2 級: 1 人 ・フライス盤: 4 人 ・研削盤: 1 人